

# 事業計画書概要

## 令和6年度補正グローバルサウス未来志向型共創等事業（ウクライナ復興支援・中東欧諸国等連携強化）

事業名	ウクライナ・ポーランド共和国 コールドチェーン実証事業				
企業名	株式会社フジタ	企業規模	中小企業・中小企業以外		
事業形態	FS実証事業（実証事業）				
事業分野	①情報通信 / ②エネルギー / ③交通 / ④都市基盤 / ⑤医療 / ⑥介護ヘルスケア / ⑦農業・食品 / ⑧廃棄物処理 / ⑨デジタル・プラットフォーム / ⑩その他				
事業規模	事業費総額：6,000百万円 / 補助対象経費総額：6,000百万円 / 補助金申請額：3,000百万円				
事業概要	<p>【商業化時のビジネスモデル】</p> <p>【目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ウクライナからの果物・野菜・畜産物を保管・一次加工（果物・野菜等）の上、付加価値を高め EU・中近東アフリカ地域等に販売・運用する事業性を判断する。</li> </ul> <p>【実施内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>冷蔵冷凍施設設置（詳細設計・外注契約・建設許可申請等の事前手続きを含む）</li> <li>冷蔵冷凍機器据付・稼働（品質確保）、AI/DX活用によるトレーサビリティチェック及び冷蔵冷凍品売買最適化支援システム導入</li> <li>ウクライナから最終市場までの冷蔵冷凍生鮮品の安定輸送の検証</li> </ul> <p>【実施方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>冷蔵冷凍施設設置：現地設計事務所・ゼネコンを活用し、詳細設計や許可申請等を経て施設設置。</li> <li>冷蔵冷凍機器据付・稼働：設備機器業者等の鮮度保持機器を導入し、稼働状況や品質保持効果を検証。将来の商用展開に向けた条件を整理する。</li> <li>AI/DX活用：トレーサビリティチェック及び冷蔵冷凍品の売買最適化支援に関して、PoC（概念実証）を実施し、データ取得・可視化・制御を検証。</li> <li>食品輸送：ウクライナから最終市場（例：EU・中近東アフリカ地域等）へのコールド輸送について、物流会社と連携し、鮮度保持と安定輸送を検証。</li> </ul> <p>【主な技術・サービス】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>プレキャスト工法（PC工法）の活用検討 →コンクリート部材（柱・梁等）を予め工場で製作し、現場で組立・施工する工法。工期短縮、現場作業の安全性向上、工期短縮、品質安定性等が期待できる。</li> <li>冷蔵冷凍機器とAI/DX技術連携 →日系の冷蔵冷凍機器を活用し鮮度・品質を追求。AI/DX技術を導入し、クラウドを活用したデータ分析、アルゴリズムでトレーサビリティ、売買最適化プラットフォームを構築。</li> </ul> <p>【スケジュール】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>交付決定日～3年間を想定</li> </ul>	<p>【目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ウクライナからの果物・野菜・畜産物を保管・一次加工（果物・野菜等）の上、付加価値を高め EU・中近東アフリカ地域等に販売・運用する事業性を判断する。</li> </ul> <p>【実施内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>冷蔵冷凍施設設置（詳細設計・外注契約・建設許可申請等の事前手続きを含む）</li> <li>冷蔵冷凍機器据付・稼働（品質確保）、AI/DX活用によるトレーサビリティチェック及び冷蔵冷凍品売買最適化支援システム導入</li> <li>ウクライナから最終市場までの冷蔵冷凍生鮮品の安定輸送の検証</li> </ul> <p>【実施方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>冷蔵冷凍施設設置：現地設計事務所・ゼネコンを活用し、詳細設計や許可申請等を経て施設設置。</li> <li>冷蔵冷凍機器据付・稼働：設備機器業者等の鮮度保持機器を導入し、稼働状況や品質保持効果を検証。将来の商用展開に向けた条件を整理する。</li> <li>AI/DX活用：トレーサビリティチェック及び冷蔵冷凍品の売買最適化支援に関して、PoC（概念実証）を実施し、データ取得・可視化・制御を検証。</li> <li>食品輸送：ウクライナから最終市場（例：EU・中近東アフリカ地域等）へのコールド輸送について、物流会社と連携し、鮮度保持と安定輸送を検証。</li> </ul> <p>【主な技術・サービス】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>プレキャスト工法（PC工法）の活用検討 →コンクリート部材（柱・梁等）を予め工場で製作し、現場で組立・施工する工法。工期短縮、現場作業の安全性向上、工期短縮、品質安定性等が期待できる。</li> <li>冷蔵冷凍機器とAI/DX技術連携 →日系の冷蔵冷凍機器を活用し鮮度・品質を追求。AI/DX技術を導入し、クラウドを活用したデータ分析、アルゴリズムでトレーサビリティ、売買最適化プラットフォームを構築。</li> </ul> <p>【スケジュール】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>交付決定日～3年間を想定</li> </ul>	<p>【ウクライナ農業復興支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ウクライナ農業の再建に向け、日本およびポーランドと連携し、冷蔵・冷凍・加工機能を活用した輸出型サプライチェーンの復興が見込める。これにより、農産物の高付加価値化を実現するとともに、鮮度保持技術や物流体制の強化を図り、ウクライナの持続可能な国際市場での安定供給基盤を構築する。</li> <li>ウクライナ和平後フェーズ2として、ウクライナ・オデーザ周辺に冷蔵冷凍施設を新設し、ポーランドと連携した越境型のコールドチェーンサービスを構築する計画である。オデーザ港の物流機能を活かし、果実・野菜・畜産品の集荷および一次加工を担う地域拠点として機能させ、周辺農業の復興と外貨獲得型輸出強化を支援する。将来には、ウクライナ産品の第三国向け輸出拡大に向けた広域輸送ネットワークの要として展開を見込む。</li> </ul>		
事業名	ウクライナ・ポーランド共和国 コールドチェーン実証事業				
企業名	株式会社フジタ	企業規模	中小企業・中小企業以外		
事業形態	FS実証事業（実証事業）				
事業分野	①情報通信 / ②エネルギー / ③交通 / ④都市基盤 / ⑤医療 / ⑥介護ヘルスケア / ⑦農業・食品 / ⑧廃棄物処理 / ⑨デジタル・プラットフォーム / ⑩その他				
事業規模	事業費総額：6,000百万円 / 補助対象経費総額：6,000百万円 / 補助金申請額：3,000百万円				
事業概要	<p>【商業化時のビジネスモデル】</p> <p>【目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ウクライナからの果物・野菜・畜産物を保管・一次加工（果物・野菜等）の上、付加価値を高め EU・中近東アフリカ地域等に販売・運用する事業性を判断する。</li> </ul> <p>【実施内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>冷蔵冷凍施設設置（詳細設計・外注契約・建設許可申請等の事前手続きを含む）</li> <li>冷蔵冷凍機器据付・稼働（品質確保）、AI/DX活用によるトレーサビリティチェック及び冷蔵冷凍品売買最適化支援システム導入</li> <li>ウクライナから最終市場までの冷蔵冷凍生鮮品の安定輸送の検証</li> </ul> <p>【実施方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>冷蔵冷凍施設設置：現地設計事務所・ゼネコンを活用し、詳細設計や許可申請等を経て施設設置。</li> <li>冷蔵冷凍機器据付・稼働：設備機器業者等の鮮度保持機器を導入し、稼働状況や品質保持効果を検証。将来の商用展開に向けた条件を整理する。</li> <li>AI/DX活用：トレーサビリティチェック及び冷蔵冷凍品の売買最適化支援に関して、PoC（概念実証）を実施し、データ取得・可視化・制御を検証。</li> <li>食品輸送：ウクライナから最終市場（例：EU・中近東アフリカ地域等）へのコールド輸送について、物流会社と連携し、鮮度保持と安定輸送を検証。</li> </ul> <p>【主な技術・サービス】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>プレキャスト工法（PC工法）の活用検討 →コンクリート部材（柱・梁等）を予め工場で製作し、現場で組立・施工する工法。工期短縮、現場作業の安全性向上、工期短縮、品質安定性等が期待できる。</li> <li>冷蔵冷凍機器とAI/DX技術連携 →日系の冷蔵冷凍機器を活用し鮮度・品質を追求。AI/DX技術を導入し、クラウドを活用したデータ分析、アルゴリズムでトレーサビリティ、売買最適化プラットフォームを構築。</li> </ul> <p>【スケジュール】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>交付決定日～3年間を想定</li> </ul>	<p>【目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ウクライナからの果物・野菜・畜産物を保管・一次加工（果物・野菜等）の上、付加価値を高め EU・中近東アフリカ地域等に販売・運用する事業性を判断する。</li> </ul> <p>【実施内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>冷蔵冷凍施設設置（詳細設計・外注契約・建設許可申請等の事前手続きを含む）</li> <li>冷蔵冷凍機器据付・稼働（品質確保）、AI/DX活用によるトレーサビリティチェック及び冷蔵冷凍品売買最適化支援システム導入</li> <li>ウクライナから最終市場までの冷蔵冷凍生鮮品の安定輸送の検証</li> </ul> <p>【実施方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>冷蔵冷凍施設設置：現地設計事務所・ゼネコンを活用し、詳細設計や許可申請等を経て施設設置。</li> <li>冷蔵冷凍機器据付・稼働：設備機器業者等の鮮度保持機器を導入し、稼働状況や品質保持効果を検証。将来の商用展開に向けた条件を整理する。</li> <li>AI/DX活用：トレーサビリティチェック及び冷蔵冷凍品の売買最適化支援に関して、PoC（概念実証）を実施し、データ取得・可視化・制御を検証。</li> <li>食品輸送：ウクライナから最終市場（例：EU・中近東アフリカ地域等）へのコールド輸送について、物流会社と連携し、鮮度保持と安定輸送を検証。</li> </ul> <p>【主な技術・サービス】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>プレキャスト工法（PC工法）の活用検討 →コンクリート部材（柱・梁等）を予め工場で製作し、現場で組立・施工する工法。工期短縮、現場作業の安全性向上、工期短縮、品質安定性等が期待できる。</li> <li>冷蔵冷凍機器とAI/DX技術連携 →日系の冷蔵冷凍機器を活用し鮮度・品質を追求。AI/DX技術を導入し、クラウドを活用したデータ分析、アルゴリズムでトレーサビリティ、売買最適化プラットフォームを構築。</li> </ul> <p>【スケジュール】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>交付決定日～3年間を想定</li> </ul>			
ウクライナ復興への貢献	<p>【ウクライナ農業復興支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ウクライナ農業の再建に向け、日本およびポーランドと連携し、冷蔵・冷凍・加工機能を活用した輸出型サプライチェーンの復興が見込める。これにより、農産物の高付加価値化を実現するとともに、鮮度保持技術や物流体制の強化を図り、ウクライナの持続可能な国際市場での安定供給基盤を構築する。</li> <li>ウクライナ和平後フェーズ2として、ウクライナ・オデーザ周辺に冷蔵冷凍施設を新設し、ポーランドと連携した越境型のコールドチェーンサービスを構築する計画である。オデーザ港の物流機能を活かし、果実・野菜・畜産品の集荷および一次加工を担う地域拠点として機能させ、周辺農業の復興と外貨獲得型輸出強化を支援する。将来には、ウクライナ産品の第三国向け輸出拡大に向けた広域輸送ネットワークの要として展開を見込む。</li> </ul>				

プレキャスト工法例



## ウクライナ復興への貢献